

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

パーパス（存在意義）

Total Energy Saving & Solutionの実現により、世界的なエネルギーの脱炭素化に貢献する

② 中長期の経営戦略

1. 系統用蓄電所の開発

2030年に系統用蓄電池の導入見通しが累計14.1～23.8GWh程度に拡大する機会を捕捉

3. 資源循環型バイオマス燃料事業

木質系燃料の持続可能性課題に対応し、農作物残渣等を活用した資源循環型燃料のニーズに対応

2. FIT太陽光のFIP転+蓄電池併設

自家消費用途への利用拡大及び既存FIT制度のFIP制度への転換に対応。2030年度の自家消費太陽光導入容量目標は10.0GW

4. 省エネ・再エネソリューション展開

太陽光・CGS等既存分野での総合的なエネルギーソリューション提供を推進。エネルギーマネジメントシステム導入拡大に対応

③ 対処すべき課題

① 脱炭素社会実現への対応

- ・2050年カーボンニュートラル実現及び2040年度温室効果ガス73%削減（2013年度比）への貢献
- ・2040年度の再生可能エネルギー40～50%（2023年度22.9%）達成に向けた対応
- ・省エネルギー強化とエネルギーマネジメントシステム導入の加速

② エネルギー安定供給とレジリエンス

- ・データセンター・半導体工場等による産業部門電力需要の大幅増加への対応
- ・大規模災害時の脆弱性対策として分散型エネルギーリソース導入拡大
- ・調整力確保のための定置用蓄電池（系統用・家庭用・業務産業用）の需要増加への対応

③ アジア地域での脱炭素推進

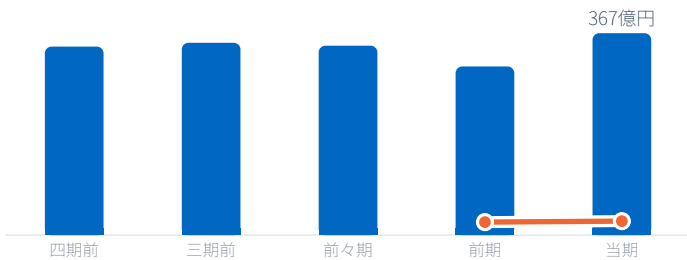
- ・アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）の枠組み下での技術・ファイナンス貢献
- ・ASEAN等での経済成長に伴うエネルギー需要増加時のGX実現への支援

面接で使えるポイント

- ・世界の再生可能エネルギー割合が2050年に73.3%に増加する見通しの中で…
- ・国内クリーンエネルギー利用分野の市場が2024年の6.1兆円から2050年に7.8兆円に拡大する成長機会を捕捉し…
- ・系統用蓄電池の2030年導入見通し14.1～23.8GWh、自家消費太陽光10.0GW目標など具体的な数値目標に対応した…

証券コード 5074

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高 367億円	営業利益率 6.9%	財務健康度 24点 / 100点
----------------	---------------	---------------------

将来性 曇り時々雨 / 就活偏差値 44.9（当サイト算出の参考指標）

平均年収
574万円
建設業内 133位/140社

平均年齢
37.1歳
建設業内 135位/140社

平均勤続
8.1年
建設業内 121位/140社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: テスHD

